

Ⅰ テサロニケ 1:9.10

創世記 3:1~7

「救いの本質と目的」

— 補足と適用 ③ —

「肉が彼らの齒の間にあってまだかみ終わらないうちに、主の怒りが民に向かって燃え上がり、主は非常に激しい疫病で民を打った。」 民数記 11:33

3:1 「さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。『あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。』」

3:2 「女は蛇に言った。『私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。』

3:3 「しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と仰せになりました。」

3:4 「そこで、蛇は女に言った。『あなたがたは決して死にません。』

「蛇が悪巧みによってエバを欺いた」、 Ⅱ コリント 11:3

3:5 「あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。』」

「わたしは主、これがわたしの名。わたしの栄光を他の者に、わたしの栄誉を刻んだ像どもに与えはしない。」 イザヤ書 42:8

「まことに、そむくことは占いの罪、
従わないことは偶像礼拝の罪だ。」 Ⅰ サムエル 15:23

「神は光であって、神のうちには暗いところがない。」 Ⅰ ヨハネ 1:5

「悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。」 ヨハネ 8:44
「愚か者は心の中で、『神はいない』と言っている。」 詩篇 14:1
「愚か者の前を離れ去れ。知識のことばはそこにはない。」 箴言 14:7

3:6 「そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。」

「すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。」 Iヨハネ 2:16
「ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。」
コロサイ 3:5

「こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。あなたがたは地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。」 コロサイ 3:1.2
「おまえは戒めを憎み、わたしのことばを自分のうしろに投げ捨てた。」 詩篇 50:17
「こういうことをおまえはしてきたが、わたしは黙っていた。
わたしがおまえと等しい者だとおまえは、思っていたのだ。
わたしはおまえを責める。おまえの目の前でこれを並べ立てる。
神を忘れる者よ。さあ、このことをよくわきまえよ。
さもないと、わたしはおまえを引き裂き、救い出す者もいなくなろう。」

詩篇 50:21.22

「アダムにあってすべての人が死んでいる」 Iコリント 15:22
「ちょうどひとりの人の不従順によって多くの人が罪人とされた」 ローマ 5:19

3:7 「このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。」

「神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作り、彼らに着せてくださった。」
創世記 3:21

「それで、律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。」 ヘブル 9:22